

子宮がんワクチンの話

子宮がんは、子宮の奥にできる体がんと入口にできる頸がんがあります。頸がんは性行為でうつる HPV というウイルスが原因でできることがわかってきました。

このウイルスは、約 100 種類が確認され、15 種類程度ががんに関与していると言われています。このうち 2 種類に対して予防効果のあるワクチンが出ています。外国ではすでに 5 年前から接種が始まっています。このワクチンは 3 回打たないと十分な効果がありません。中学生から高校 1 年生の間は市から接種費用の助成が受けられますので、その間に接種することをお勧めします。

以前は、このワクチンを打つと不妊症になるという噂があったようですが、現在は否定されています。ただし、全てのウイルスに効果があるわけではありません（現在、8 種類に効果のあるワクチンが開発中のようです）。そのため、性行為の経験のある女性は定期的に子宮がん検診をすることをお勧めします。

子宮がんは進行すると命に関わる病気です。また、死なないまでも子宮を取ることであれば、将来妊娠ができなくなります。もし、子宮がんになったとしても初期であれば子宮の入口だけを取る手術でほぼ 100% 治ります。その場合、妊娠することは可能です。

子宮がんはワクチンとがん検診により自己防衛できるがんなのです。

平成 25 年 3 月

新屋敷 康